



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年10月28日

上場取引所 東

上場会社名 理研ビタミン株式会社

コード番号 4526 URL <http://www.rikenvitamin.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 山木 一彦

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画部長

(氏名) 藤田 満

TEL 03-5275-5111

四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日

配当支払開始予定日

平成28年12月9日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	42,037	△2.4	3,217	10.0	2,761	△7.7	1,285	△32.1
28年3月期第2四半期	43,079	4.8	2,923	45.6	2,991	44.5	1,894	20.7

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 △2,072百万円 (—%) 28年3月期第2四半期 △991百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
29年3月期第2四半期	77.96	—
28年3月期第2四半期	85.82	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	101,118	47,138	46.1
28年3月期	109,094	74,406	67.7

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 46,653百万円 28年3月期 73,829百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
28年3月期	—	31.00	—	35.00	66.00
29年3月期	—	33.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	33.00	66.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭	
通期	88,500	0.5	6,500	7.8	5,700	6.7	3,400	△17.7	213.28	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期2Q	20,352,550 株	28年3月期	23,652,550 株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	4,961,167 株	28年3月期	1,661,007 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期2Q	16,491,522 株	28年3月期2Q	22,071,808 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績および雇用情勢等に引き続き堅調な改善傾向が見られる中、為替・株式市場が大きく変動するなどの不安定要素もあり、消費の本格的な回復には不透明感を抱えた状況で推移しました。一方、海外経済は、米国においては雇用環境等の改善を背景に、個人消費が堅調に推移したことに加え、企業業績も改善傾向が続き、欧州においても個人消費が下支えする形で、全体として景気は底堅く推移しました。但し、新興国経済の減速や資源国の景気状況への不安視、更には英国のEU離脱問題等もあって、一部に依然として予断を許さない状況が存在しております。

食品業界においては、フードディフェンスを含めた食の安全・安心へのしっかりとした対応はもとより、少子・高齢化が進み益々競争激化する国内市場での取り組みに加え、成長が見込めるエリアを見極めたグローバル展開に繋がる施策推進が強く求められる状況にあります。

このような事業環境のもと、当社グループでは、昨年4月より平成30年3月までの3年間を対象として、
◇成熟市場として認識する「国内マーケット」における「収益基盤の確立」
◇成長市場として認識する「海外マーケット」における「構造基盤の強化」
(グローバルカンパニーとしての揺るぎない体制構築に繋がる成長戦略の推進)
を基本に据えた、「中期経営計画」への取り組みを推進しました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、『国内食品事業』および『国内化成品その他事業』がそれぞれ前年同期を上回る実績を確保したものの、『海外事業』が為替影響を受ける結果となり前年同期実績に届かなかったため、売上高は420億37百万円(前年同期比10億42百万円、2.4%減)となりました。

利益面では、効率的な生産に加え、販売促進策も含めた販売管理オペレーションの徹底も奏功し、営業利益は32億17百万円(前年同期比2億93百万円、10.0%増)となりましたが、自己株式取得費用や支払手数料の発生により経常利益は27億61百万円(前年同期比2億30百万円、7.7%減)、また、青島福生食品有限公司(中国)の製造設備での減損損失の計上により親会社株主に帰属する四半期純利益は12億85百万円(前年同期比6億8百万円、32.1%減)となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

〔国内食品事業〕

『家庭用食品』では、食塩・化学調味料無添加の「素材力だし」が堅調な推移を示し前年同期を上回る実績を確保しました。市販ドレッシングでは、ノンオイル品は伸びを欠く状況にあったものの、サラダデュオ®シリーズはご好評をいただき、CM等の販売促進策効果もあり実績確保に貢献しました。

海藻商品につきましては、『家庭用食品』では、「わかめスープ」が伸びを欠く状況にありましたが、「ふえるわかめちゃん®」および『業務用食品』での乾燥わかめに加えて冷凍海藻等の着実な伸長もあり、売上は前年同期を上回りました。

『加工食品用原料等』では、ビタミンC等一部の分野で売上が前年同期を下回ったものの、販売および技術・開発部門の連携をしっかりと図る中で、ユーザーニーズに的確に応えたソリューションビジネスの展開により、食品用改良剤の分野での売上が堅調に推移したことに加え、医薬用マイクロカプセルやビタミンE等も着実な伸長を示し、部門全体では前年同期を上回る売上実績を確保しました。

この結果、当セグメントの売上高は、前年同期から7億4百万円(2.5%)増加した290億54百万円となり、営業利益は32億52百万円(前年同期比8億4百万円増)となりました。

〔国内化成品その他事業〕

プラスチック・農業用フィルム・食品用包材・ゴム製品・化粧品などの工業用分野に、加工性向上および帯電防止・防曇等の機能性を付加する『化成品(改良剤)』では、一部関係先業界の業況が影響したものの、食品用改良剤分野と同様にユーザーニーズを捉えたソリューションビジネスの展開により、部門全体の売上では前年同期を上回る結果となりました。

また、『その他』の事業でも、飼料用油脂の売上がほぼ前年同期並みの実績を確保しました。

この結果、当セグメントの売上高は、前年同期から87百万円(3.0%)増加した29億96百万円となり、営業利益については2億99百万円(前年同期比1億31百万円増)となりました。

〔海外事業〕

アジア・欧米をはじめとする各エリアの既存市場での深耕に加え、成長が見込める新市場の開拓と販売拡大に取り組む活動を推進する『改良剤』分野においては、情報発信基地としての役割を担う「アプリケーションセンター」の機能を活かす中で、RIKEVITA (MALAYSIA) SDN. BHD.をはじめとする生産拠点と、世界各地に設けた販売会社との連携によるソリューションビジネスの展開を図りましたが、為替影響を大きく受けることとなり、売上実績は前年同期には届かない結果となりました。

加えて、中期経営計画に基づく事業モデル転換中の青島福生食品有限公司の売上も、前年同期を下回る結果となりました。

この結果、当セグメントの売上高は、前年同期から19億30百万円（15.5%）減少した105億17百万円となりました。尚、『改良剤』分野においては営業利益を計上したものの、当セグメント全体では、営業損失1億24百万円（前年同期比6億62百万円減）を計上する結果となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は1,011億18百万円となり、前連結会計年度末に比べ79億76百万円減少しました。主な減少は、有形固定資産で31億38百万円、受取手形及び売掛金で17億46百万円、現金及び預金で13億39百万円であります。

負債は539億79百万円となり、前連結会計年度末に比べ192億90百万円増加しました。主な増加は、長期借入金198億42百万円であります。

純資産は471億38百万円となり、前連結会計年度末に比べ272億67百万円減少しました。主な要因は、自己株式が取得を244億20百万円、消却を114億40百万円それぞれ行ったことにより129億80百万円増加し、また、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益の計上で12億85百万円増加したものの、配当金の支払で7億69百万円、自己株式の消却により114億39百万円減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては平成28年10月26日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。今後の事業環境の変化を見極めた上で、見直しの必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,270	12,931
受取手形及び売掛金	21,814	20,067
電子記録債権	498	458
商品及び製品	7,035	6,840
仕掛品	2,948	3,274
原材料及び貯蔵品	7,389	7,322
その他	3,697	3,022
貸倒引当金	△190	△210
流動資産合計	57,464	53,706
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,107	11,746
機械装置及び運搬具(純額)	14,084	12,066
その他(純額)	3,706	3,947
有形固定資産合計	30,899	27,760
無形固定資産	901	784
投資その他の資産		
投資有価証券	18,692	17,536
退職給付に係る資産	—	198
その他	1,150	1,165
貸倒引当金	△12	△34
投資その他の資産合計	19,829	18,866
固定資産合計	51,630	47,411
資産合計	109,094	101,118

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,387	7,222
電子記録債務	303	327
短期借入金	11,642	13,290
未払法人税等	1,078	941
引当金	965	1,052
その他	6,169	5,595
流動負債合計	28,546	28,431
固定負債		
長期借入金	435	20,278
退職給付に係る負債	196	190
その他	5,509	5,079
固定負債合計	6,141	25,548
負債合計	34,688	53,979
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,537	2,537
資本剰余金	2,466	2,465
利益剰余金	62,169	51,246
自己株式	△4,219	△17,199
株主資本合計	62,954	39,049
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,989	8,182
繰延ヘッジ損益	7	△19
為替換算調整勘定	1,900	△517
退職給付に係る調整累計額	△20	△41
その他の包括利益累計額合計	10,875	7,603
非支配株主持分	576	485
純資産合計	74,406	47,138
負債純資産合計	109,094	101,118

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	43,079	42,037
売上原価	30,239	28,680
売上総利益	12,840	13,356
販売費及び一般管理費	9,916	10,139
営業利益	2,923	3,217
営業外収益		
受取利息	18	18
受取配当金	199	217
為替差益	92	—
その他	71	76
営業外収益合計	382	311
営業外費用		
支払利息	298	340
為替差損	—	46
自己株式取得費用	—	73
支払手数料	7	248
その他	8	58
営業外費用合計	314	767
経常利益	2,991	2,761
特別利益		
固定資産売却益	3	12
受取補償金	6	—
補助金収入	20	1
その他	—	0
特別利益合計	31	14
特別損失		
固定資産除却損	96	47
固定資産圧縮損	11	—
減損損失	28	525
その他	2	19
特別損失合計	138	592
税金等調整前四半期純利益	2,884	2,184
法人税等	968	894
四半期純利益	1,915	1,289
非支配株主に帰属する四半期純利益	21	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,894	1,285

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
四半期純利益	1,915	1,289
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,663	△806
繰延ヘッジ損益	△2	△30
為替換算調整勘定	△1,150	△2,503
退職給付に係る調整額	△91	△20
その他の包括利益合計	△2,907	△3,361
四半期包括利益	△991	△2,072
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△928	△1,985
非支配株主に係る四半期包括利益	△63	△86

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成28年4月27日開催の取締役会決議に基づき、自己株式6,600,000株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が244億20百万円増加しました。

また、平成28年6月24日開催の取締役会決議に基づき自己株式3,300,000株の消却を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金が1百万円、利益剰余金が114億39百万円、自己株式が114億40百万円それぞれ減少しました。

当第2四半期連結会計期間末において利益剰余金が512億46百万円、自己株式が171億99百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内 食品事業	国内化成品 その他事業	海外事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	28,295	2,908	11,875	43,079	—	43,079
セグメント間の内部売上高 又は振替高	54	—	572	627	△627	—
計	28,349	2,908	12,448	43,707	△627	43,079
セグメント利益	2,447	167	537	3,152	△229	2,923

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△169百万円、たな卸資産の調整額△59百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

報告セグメントに係る該当事項はありません。なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結損益計算書の特別損失に計上しております減損損失28百万円は、いずれの報告セグメントにも配分されていない遊休資産の地価下落によるものです。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内 食品事業	国内化成品 その他事業	海外事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	28,984	2,996	10,056	42,037	—	42,037
セグメント間の内部売上高 又は振替高	70	—	461	531	△531	—
計	29,054	2,996	10,517	42,568	△531	42,037
セグメント利益	3,252	299	△124	3,426	△209	3,217

- (注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△201百万円、たな卸資産の調整額△8百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)
- 海外事業において、青島福生食品有限公司が保有する事業用資産の一部が遊休状態となったため、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において525百万円であります。